

社会福祉法人綾部福祉会

平成31年(令和元年)度事業報告書

はじめに

新しい時代を迎えた2019年、「ともの家の新築移転」については、国庫補助の申請をし、令和元年度補正予算での補助が確定し、令和2年度に建設、令和3年春の移転が確かなものとなりました。地域に根差す作業所として、これまでお世話になった地域の皆さんに感謝し、新しい地域の皆さんとともに、皆で新しいともの家、元気な作業所を作っていきたいと思えます。

職員不足が続く中、年度途中の採用や退職が増え、計画的な採用ができない状況が続いている中で、老人施設経験等福祉職場経験の職員の確保や非正規職員の正規職員への登用に取り組み、正規職員を増やすことができました。

しかしながら、作業所職員としては経験が浅い職員が多くなり、今後の育成研修の充実が求められます。

その中で、職員が団結していくことを目指して、2019年度も職員の研修、交流の機会として、4月に「第2回実践交流会」を実施することができました。今後も、事業所間の交流連携を一層深め、綾部福祉会の一体感を持てるようにしていきたいと思えます。

組織の安定については、まだまだ、課題が多いですが、理念を大切に、原点を振り返りながら、みんなで力を合わせて、今後も各取り組みを進めていきたいと思えます。

綾部福祉会の各事業の取り組みは以下の通りです。

1. 事業所状況

(1) 在籍者(2.3.31現在)

◇あやべ作業所《多機能型》	定員50名	現員64名
・生活介護事業	定員40名	現員48名
・就労継続支援B型事業	定員10名	現員16名
・訪問生活介護事業(市委託事業)		登録者 2名
・日中一時支援事業(市委託事業)		登録者 5名
◇ともの家《多機能型》	定員36名	現員32名
・就労継続支援B型事業	定員30名	現員32名
・就労移行支援事業	定員 6名	現員 0名
◇ワークショップサクラティエ		
・就労継続支援B型事業	定員20名	現員23名
◇グループホーム「ゆうゆう荘」	定員 6名	現員 6名
・共同生活援助事業		
◇ゆらりんホーム	定員 4名	現員 4名
・共同生活援助事業		
◇にっこりホーム	定員10名	現員10名
・共同生活援助事業		
◇にっこりⅡ(にっこりホームサテライト)	定員 1名	現員 1名
・共同生活援助事業サテライト型住居		
3月末で事業期間終了		

◇生活支援センター「えがお」

・相談支援事業

◆障害種別（2.3.31 現在）

	知的	身体	重複	精神	その他
あやべ作業所	33	5	13	13	0
訪問生活介護			2		
ともの家	17	2	2	13	0
ワークショップサクラティエ	16	0	6	0	1
ゆうゆう荘	3	0	2	1	0
ゆらりんホーム	4	0	0	0	0
にっこりホーム	10	0	0	0	0
にっこりⅡ	0	0	0	1	0

◆年齢層（2.3.31現在）

あやべ作業所	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	計	平均年齢
男	2	7	11	9	6	6	2	43	43
女	1	4	4	4	4	3	1	21	44.3
計	3	11	15	13	10	9	3	64	43.5
ともの家	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	計	平均年齢
男	0	1	4	4	4	5	1	19	50.4
女	1	4	1	2	2	1	2	13	47.0
計	1	5	5	6	6	6	3	32	49
サクラティエ	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	計	平均年齢
男	0	2	1	1	0	0	0	4	30.6
女	1	7	6	3	1	1	0	19	33.4
計	1	9	7	4	1	1	0	23	32.9
ゆうゆう荘	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	計	平均年齢
男	0	0	0	0	3	3	0	6	59.8
ゆらりん	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	計	平均年齢
女	0	0	1	1	2	0	0	4	48.0
にっこり+Ⅱ	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	計	平均年齢
男	0	0	5	3	0	1	0	9	41.6
女	0	0	0	0	0	1	1	2	73
計	0	0	5	3	0	2	1	11	47.3

（2）職員体制

◇あやべ作業所 多機能型（生活介護・就労継続支援B）（訪問生活介護・日中一時）

- ・管理者……………1名
- ・主任……………1名（サビ兼兼務）
- ・サービス管理責任者…2名
- ・事務員……………1名
- ・調理員……………2名
- ・職業指導員……………1名（管理者と兼務）
- ・生活支援員……………16名
- ・看護師……………1名
- ・訪問生活介護支援員…2名
- ・日中一時支援員……………1名

※運転手…3名（業務委託）

合計27名

◇ともの家

- ・管理者…………… 1名
- ・サービス管理責任者… 1名（兼務）
- ・事務員…………… 1名
- ・職業指導員…………… 4名
- ・生活支援員…………… 3名
- ・弁当補助員…………… 1名

合計 10名

◇ワークショップサクラティエ

- ・管理者…………… 1名
- ・サービス管理責任者… 1名（兼務）
- ・事務員…………… 1名
- ・職業指導員…………… 2名
- ・生活支援員…………… 2名
- ・作業補助員…………… 1名

合計 8名

◇生活支援センター「えがお」

- ・管理者…………… 1名（相談員兼務）
- ・相談員…………… 3名
- ・事務員…………… 1名

合計 4名

◇グループホーム「ゆうゆう荘」

- ・管理者…………… 1名（兼務）
- ・サービス管理責任者… 1名（兼務）
- ・生活支援員…………… 1名（交代制）
- ・世話人…………… 1名（交代制）

合計 4名

◇ゆらりんホーム

- ・管理者…………… 1名（兼務）
- ・サービス管理責任者… 1名（兼務）
- ・世話人…………… 1名（交代制）

合計 3名

◇にっこりホーム・にっこりⅡ

- ・管理者…………… 1名（兼務）
- ・サービス管理責任者… 1名（兼務）
- ・生活支援員…………… 2名（交代制）
- ・世話人…………… 2名（交代制）

合計 6名

(3) 開所日数と利用状況等

◇あやべ作業所（生活介護事業）

開設日数	248日（昨年度 240日）
特別開所日（土曜日等）	12日（昨年度 7日）
延利用者数	9,032人（昨年度 9,071人）

1日平均 利用率	36.4人(昨年度36.6人) 78.7%(特別開所日は除く) (昨年度84.0%)
特別開所日延利用者数	245人(昨年度164人) (1日平均20.4人)(昨年度21.8人)
特別開所利用率	43.0%(昨年度は49.5%)

◇あやべ作業所(就労継続支援B型事業)

開設日数	246日(昨年度240日)
特別開所日(土曜日他)	11日(昨年度7日)
延利用者数	2,602人(昨年度2,079人)
1日平均 利用率	10.6人(昨年度8.4人) 79.7%(特別開所日は除く) (昨年度83.6%)
特別開所日延利用者数	46人(昨年度29人) (1日平均4.2人)(昨年度4.1人)
特別開所利用率	28%(昨年度は33%)

◇あやべ作業所(訪問生活介護事業(市委託事業))

延利用者数	151人(昨年193人)利用者他施設入所のため減
-------	--------------------------

◇あやべ作業所(日中一時支援事業(市委託事業))

延利用時間	介護なし	30時間(昨年16時間)
	介護あり	188時間(昨年236時間)
	医療的ケア	260時間(昨年420時間)

※入院時コミュニケーション事業

1件6時間(昨年0件0時間)

◇ともの家(就労継続支援B型事業)

開設日数	240日(昨年度239日) +24日(交替での休日出勤)
延利用者数	5,834人(昨年度5,471人)
1日平均 利用率	22.1人(昨年度22.9人) 76.2%(昨年度78.9%)

◇ワークショップサクラティエ(就労継続支援B型事業)

火曜定休・第2第4水曜休
土日交替出勤

開設日数	293日(昨年度300日)
延利用者数	4,525人(昨年度4,575人)
1日平均 利用率	15.4人(昨年度15.2人) 75.9%(昨年度69.3%)

◇グループホームゆうゆう荘

年間開設の延日数	365日
延利用者数	2,082人(昨年度2,109人)
1日平均 利用率	5.7人(昨年度5.8人) 95.1%(昨年度96.3%)

◇ゆらりんホーム

開設日数	365日
延利用者数	1,149人(昨年度1,033人)
1日平均	3.1人(昨年度3.3人)
利用率	78.7%(昨年度70.8%)

◇にっこりホーム・にっこりⅡ

開設日数	365日
延利用者数	3,929人(昨年度3,665人)
1日平均	10.8人(昨年度10.0人)
利用率	97.9%(昨年度91.3%)

2. 実践

①作業

◎あやべ作業所

令和元年度のあやべ作業所は、59名の仲間でスタートをしました。年度途中で6名の利用が始まり、1名退所があり3月時には64名の利用者となりました。毎日通所することを希望する方ではなく、週に1回ないし2回の通所を希望される方が増えたのが特徴でした。

64名のメンバーは5つのグループに分かれ、働く(仕事)ということを中心に、障害の程度に関係なく、働きたい、〇〇したいという思いの実現への支援を行ってきました。機能訓練や仕事以外の取り組みも必要なメンバーには、仕事以外の時間もつくりながら、入浴の支援も行い、個別の課題への対応もできるように取り組んできています。常時医療的ケアが必要なメンバーが3名利用していましたが、1名は家庭事情もあり入所の事業所へ移られました。

新型コロナウイルスの影響を受け、2月3月の売上は昨年よりやや減少でした。作業所にウイルス感染が起こらないよう最善の注意を払いながら支援を行いました。

ひかり班

作業を中心とした実践を行っていますが、肢体障害のメンバーもあり、機能訓練も行っています。 14名 職員 3.4名

<主な作業>

醤油、食品加工(クッキー等)、資源回収、西部グラウンド整備等

まんぷく班

作業と生活支援が半々。醤油ラスクもがんばってます。 11名 職員 3.8名

<主な作業、取り組み>

食品加工(クッキー等)、資源回収、アルミ缶プレス、下請け作業等

イヌ班

障害の重い活動的なメンバーのグループで、ほとんど屋外での活動をしています。

7名 職員 3名

<主な作業、取り組み>

資源回収等・散歩、体力づくり、社会参加、生きがいを重視した取り組み

すずらん班

一人暮らしや高齢の方が多く、生活をサポートすることも課題になります。週に数回の利用の方が増えました。

18名 職員 3.8名

<主な作業、取り組み>

下請け、縫製作業等・散歩、体力づくり、社会参加、生きがいを重視した取り組み

さくら班

障害の重いメンバーで、医療的ケアを必要とする方もいます。車イスの方には、機能訓練も行っています。 12名 職員 4.8名

<主な作業、取り組み>

アルミ缶プレス、下請け作業、配膳等・機能訓練、体力づくり、社会参加、生きがいを重視した取り組み

主に車イスの利用者＝パン作業、給食の配膳

デイサービスの利用

月に数回の利用を希望される方があり、グループに所属するのではなく個別に対応した方が過ごしやすい方の利用をデイサービスの5つのグループとは別枠で位置づけました。

2名の方の利用がありますが、1名は体調不良で長期入院中です。

2名 職員 1名

<主な取り組み>

足浴、食事、入浴

訪問生活介護

今年度も3名の利用者（在宅2名、病院1名）の所に訪問して出張作業等を行いました。病院へ訪問していたメンバーは亀岡の入所の事業所に移ることになり、訪問が終了しました。

訪問の製品「あやころちゃん」は好評で、バザーでの販売や個人で注文をいただいたりして作るのに追われる時もある程です。

*作業等

- ・利用者の工賃505円を維持。年度末手当も支払う。
- ・「オーダーチーズ」様より2019年度もあやぼうろの大量注文。
- ・「醤油ラスク」好調。
特産館や京都のほっとはあとセンターのお店でよく売れている。
- ・特別市民の記念品に使用。醤油 500ml。
- ・ふるさと納税の返礼品に醤油 6本入り採用されている。
- ・イベントなどでの販売会に参加
- ・“あやころちゃん”も好評で記念品での注文やバザー販売で売っています。

★今年度工賃実績

年間売上高	1426万円<30年度 1580万円> (あや作全体)
工賃支払総額	619万円<30年度 668万円> (生活介護)
工賃支払総額	196万円<30年度 177万円> (就労B)
平均時間給	160円<30年度 172円> (あや作全体)

◎ともの家

笑顔プランの積み残しの課題である「ともの家新築移転」事業が令和2年度補正予算で予算化され実現される見通しとなった。

昨年度に引き続き職員の入れ替わりが激しい1年となる。作業のハードさに加え、正規職員1名体制の中、地域生活を含め実践を支えることのしんどさが身に染みた1年だった。

仲間は春から支援学校卒業生女性1名を迎えた。

○弁当

管理栄養士の育休により正規職員不在の中、何とか1年非正規職員だけで乗り切ることができた。若干の減収となってしまったが、仲間の力量アップに加え、職員各々の責任感とチームワークにつきる。

仲間の高齢化と作業保障は引き続き課題。

○メンテナンス

今年度も保健福祉センター・いこいの村梅の木寮ユニット棟・京都府綾部地域振興局庁舎・綾部士社協の清掃作業を受託し、フル稼働で業務にあたった。例年受託している水無月まつりの「万灯」作業だが、昨年度の雨天中止を受け在庫を抱えた状態であったため減収となった。年度途中での仲間の受け入れもあり、清掃作業の箇所数を増やすなど給料保障の仕掛けが必要。

★今年度工賃実績

年間売上高	2470万円
工賃支払総額	1410万円
平均工賃月額	約4万円
平均時間給	約550円

◎ワークショップサクラティエ

仲間22名・職員6名でスタートした。

仲間人数は4月と7月に1名ずつ増員、5月に1名の退所があり23名に。転居による退所があった。対して職員体制は、産休代替職員が任期半ばで突然退職（5月）正規職員の退職（9月）と毎年のように激震に見舞われつつも、7月に産休代替職員1名とパティシエ専門職をアルバイト雇用し、さらに9月には事務員と作業補助職員の2名をパート採用。1月末には育休明け職員の復帰があり、二つの班にそれぞれ班責を置き複数職員体制がとれるようになった。

少人数職員集団の良さを生かし、一人の仲間の様子も全員で話し合ったり認め合ったりできたし、行事や課題についても全員で協力しすすめることができたことが特徴である。

対して就労支援事業については、4月から3カ月かけて、仲間の給料支給基準を作成しなおし、月間支払い額を約10万円引き上げることができた。

しかし、年間を通じて目標に対する計画立案・実践・修正ができる体制が作れなかったこと、更に、今も続くコロナ感染症の影響は、食品関連の仕事のみが柱となっているサクラティエには大打撃となり、伸び悩んだ昨年をさらに下回る売上高にとどまった。

コロナ対応としては、日ごろの衛生管理の力を生かし、徹底した対策をとるべく努力を惜しまなかった。マスク不足には手作りのガーゼシートを作成、毎日煮沸して使用し、使い捨てマスクの節約をしたり、食事時間の2部制、さらには半日ずつの時差出勤にして「三密」状態を回避した。が、職員の負担が多くなったりデメリット点も多かった。

○カフェ

2年続けた「ちーびず事業」から撤退した。

対して、厨房の仲間ができることを増やし、仲間だけでメニューを完成させることもできるようになった。さらに、11月から週替わりメニューが加わり、人気となった。

3月に入っていた貸し切り予約はすべてキャンセルとなり、「サクラマルシェ」も中止。

寂しい、やるせない年度末であった。

○菓子製造

体制不足のため前年度定着していた「季節のはらぺこ便」から撤退した。

7月からアルバイトパティシエの配置によりチョコレートやケーキなどの生菓子が製造できるようになり、物品販売の機会には商品のレパートリーが増え、特に中丹支援学校での定期販売では毎回完売する人気ぶり。今後、どう店の営業とタイアップしていけるかが課題となっている。

「こども食堂」(福知山市)へのバースデーケーキ配達(府社協の赤い羽根事業)では、毎回喜んでもらい、子どもたちも支援者もとても楽しみにされている。

2月以降、バザーの予定やイベントの中止、さらには委託販売先も休業となる中、売り上げも激減。製造量も絞らざるを得なくなり、「不要不急」のお菓子の需要がどこにあるのか考えこんだ年度末だった。

★今年度工賃実績

年間売上高	1,078万円
工賃支払総額	447万円
平均工賃月額	16,195円
平均時間給	約200円

②利用者の自治活動

*あやべ作業所 自治会「はばたき会」

- ・役員会 全体会 月1回
- ・当番活動
放送当番、掃除当番
- ・クラブ活動
- ・交流会への参加など
- ・研修旅行：1泊旅行(姫路方面)10/3と日帰り旅行(城崎方面)9/20と希望によりわかれて実施。

*ともの家 自治会

- ・役員会を中心に「思いを伝える力」「思いを聞き出す力」を引き出す支援
- ・交流会への参加など
- ・研修旅行：日帰り旅行(大阪方面海遊館等)11/9

*サクラティエ 自治会「からあげくん」

- ・総会 年1回
- ・班ごとに、ねらいをもった「おでかけレク」(舞鶴市・綾部駅前)
- ・班対抗「内線でBINGO!」ゲーム
- ・ポッチャ等室内ゲームなど、班の仲間意識やみんなで「楽しむ」経験をはぐくむ支援
- ・研修旅行：日帰り旅行(USJ)11/26
- ・署名・映画をみんなでとりくむための「サクラの花を咲かそう」委員会の結成

③くらしの支援

*グループホーム

◎グループホームゆうゆう荘

高齢化もあり、服薬など支援を必要とする方が増えた中、支援員の薬の置き間違えがあり、再発防止対策として薬の支援の見直しを行った。

大雨の時に水漏れが多く、雨どいの点検修理を行った。

高齢化が進む中、2階の居室の利用がいつまで可能か、建物の老朽化も進んでいる、バリアフリー化の限界もある。

◎ゆらりんホーム

地域の下水道工事が始まった。下水の引き込み工事が必要になる。お風呂場が冬はとても寒く、夏はとても暑い、改装も必要だが、今後この場所の利用をどうしていくか、今年度は避難することがなかったが、防災面も含め検討必要になってきている。

(4) ケース会議

年間 100回(主催・出席)(昨年 89回)

(5) その他

- ア 卒業時の進路相談(中丹支援学校・福知山高校三和分校・綾部高校)
- イ 綾部市療育教室 先輩保護者との交流会・保護者グループ懇談・個人懇談
- ウ 季節療育
- エ 精神保健家族会
- オ 親の会「あっぴるず」
- カ 北部高次脳機能障害リハビリ講習会
- キ その他

② 相談・支援の内容

- ・相談員3名へ増員体制になってから2年目であり、ケース担当の交替や複数対応等をより進めていくことが出来た。
- ・障害児相談支援については、女性の相談員2人で分担しているが、主に就学前と就学後に分担する形になっている。年々増え、今後も増えていくことが予想される
- ・特定事業所加算Ⅱを算定できる常勤3名体制をとれていることもあり、朝の打ち合わせ時間を中心に声をかけ合って、相談員同志の情報共有や支援方針の協議を重ねてきた。
- ・実人数295人の内、計画相談支援対象外は82名。
- ・市内の障害福祉サービスの提供事業所が廃止されたり、減員されたりすることで、本人が利用を希望されるサービスも、実際の利用調整を図れないケースがあり苦慮している。
- ・市内で新規開設されてまだ年数の浅い放課後等デイサービス事業所の利用調整を図るに当たり、利用児家族の希望と事業所の提供内容に相違があり、行政と一緒に調整をする必要のあるケースが複数あった。相談員としての重責を感じている。
- ・当法人の事業(作業所・グループホーム)利用者以外のケースが増えている。障害児相談支援の件数が増えていることなどから、今後も更に増加が見込まれる。

③ 在宅重症心身障害児・者機能訓練事業「れいんぼう」(受託事業)

- ・綾部市から当法人「綾部福祉会」が委託を受け、更に舞鶴赤十字病院に委託をする形で、毎月1回(年間12回)の計画で、訓練事業を実施した。
ただし、コロナウイルス感染症の拡大に伴い、最終の3月については実施を中止し、年間11回の開催実績となった。
- ・昨年度の4名から更に増え、5名が利用されている。
- ・地域には成人期リハビリの機会が乏しく、本人や家族からのニーズやリハビリへの意識は高い。今後も本事業の継続は必要と感じている。継続と内容の充実のためには、現在の体制では難しく検討課題となっている。

④ 療育教室「あいむ」保護者同窓会(第4回)(主催)

- ・2月15日(土) 綾部市保健福祉センターにて開催。
- ・参加は5名で、小学1~5年まで幅広い年齢層の方の参加があった。
- ・就学後も関わらせていただくことを伝え、具体化するきっかけとして、年1回開催が定着。

⑤ 自立支援協議会

(1) 綾部市地域障害者自立支援協議会(全体会・相談支援部会)

(2) 中丹圏域障害者自立支援協議会

(全体会・運営委員会・医療的ケア部会・相談支援事業所連絡会)

- ・30年度に引き続き「災害対策」テーマを柱とし、サポートシートの作成について検討を重ね

てきた。障害のある方の防災に関する学習や取り組みは広がってきており、部会の中で共有するようにしてきた。

⑥ その他関係会議

- (1) 中丹地域リハビリ連絡会議
- (2) 中丹地域難病対策地域協議会
- (3) 北部高次脳機能障害支援ネットワーク会議
- (4) 綾部市季節療育運営委員会
- (5) その他

⑦ 研修

- (1) 中丹圏域障害者自立支援協議会関係 研修会
- (2) 相談支援に関する研修
- (3) 各障害・病気理解・ひきこもり支援に関する研修
- (4) 医療的ケアに関する研修会
- (5) リハビリに関する研修
- (6) 教育・福祉連携に関する研修
- (7) 主任相談支援専門員養成研修（全4日）を受講
- (8) その他

3. 2019年度計画のまとめ

① 各部署の取り組み

・法人事務局：福祉事業を統括し、組織の安定・充実を目指します

○難しいことはできるだけ簡単に伝え、コミュニケーションも取りやすく考えるが、事務局・管理者・職員間のコミュニケーションがうまく取れていないところもあり、まだ課題があるようだ。職員の確保・育成の面では、ともの家・サクラティエ・ホームで退職者もあったが、老人施設経験の職員などを採用することができた。2名の非常勤職員の正規職員登用もあり、正規職員が21名になったが、1年2年の正規職員もあり、障害福祉は未経験者も多くなり、研修プロジェクト等で育成計画を確立していかなければならない。

2019年度も全職員を対象に、各事業所の実践交流会と海外研修報告を聞くことができ、職員の学習の場・交流の場となりました。今回は、理事・評議員の参加もあり、参加者からは、良かったという意見が多く出ていました。

組合からの要望書の提出があり、理事会・管理者会で話し合う機会を持つことができた。これまで、綾部ではあまり取り組まれず、個人での行動に走る人もあったが、職員個人の行動でなく、集団で意見をまとめ要望書を提出するということは、今後の作業所運営においても生かされていくことになると感じました。

・日中活動支援部：日中活動の場の充実・発展に努めます

○ともの家の新築移転に向け、国庫補助申請をし令和元年度補正予算での補助で取り組めるようになりました。次年度は、建設に取りかかることになり、中身について固めていきます。

・くらしの支援：暮らしの問題や課題の解消に努めます

*各ホームの防災対策

○防災計画をにっこりホーム中心で作っているが、ホーム毎にそれぞれに合う防災計画に見直す必要がある。

*ゆうゆう荘・ゆらりんホームの今後のことや次のホームやショートステイについて検討します

○検討はできず。近い将来必要とする方が増えてきている中、次のプランに入れていかなければならない。

★日中活動では、車両の使用が多くなり、今年度は人身事故を含め車両の事故が多発した。

また、作業所内での転倒事故や、ホームでの転倒事故があった。

安全運転、事故防止に努めていく。

あやべ作業所では、生活介護事業で重度の障害の仲間を受け止めているが、誤嚥性肺炎により呼吸停止という危機的状況があり、救急搬送をすることが2度あった。看護師1名の体制と救急車到着まで20分という中で、医療的ケアの仲間を受け止めることへの不安も感じる出来事で、事業所だけの問題ではなく、医療や生活介護事業自体の課題があり、今後は行政や関係機関を巻き込んで、一緒に、安心して通所できて、安心して支援ができるようにしたいと思う。また、利用者の高齢化、家族の高齢化が進んでおり、作業所の取り組みも多様化し、生活面の支援の必要性が高くなってきている。

・事務部：事業活動の会計の法令遵守に努めます

○消費税が10月に標準課税と軽減課税の変更に伴い、会計事務職員で研修会へ参加や会計ソフトの対応等を行った。

○他事業所の事務状況等を調査。かねてからの問題になっている職員給料の締日の変更について調査研究を行い、令和2年度に新体制に移行予定である。

*近未来の事務方向性を、見聞を広めることで、運営の透明性と基盤強化をさらにすすめます。

○事務センターへの考え方は、具体的に動けていない。ネット環境・パソコン環境・資料の保管等も頭に置き、動きやすい場所で行なえるように検討していく。

② 家族、地域の人たちとの協力協同の取り組みを進めます

・家族との連携を深めます

○各施設での開催にとどまった。ホームの家族の交流も考えていたが、新型コロナの感染拡大防止のため開催を見送った。

・地域との共生を目指して、地域との交流、ボランティアの受け入れを行います

○第30回作業所まつりの実施で、30回の節目に相応しく、1,500名を超えるこれまでにない来場者となり、ステージ発表もたくさんの方に参加いただけ充実した内容となった。

ボランティアセンターの喫茶「シボラ」や、物部のサロン活動「やまぼうし」の取り組みへの参加、各事業所では、ボランティア受け入れや地域との交流を行ないました。サクラティエ・ともの家では、オムロンのCSRの取り組みとして、ボランティアの受け入れをし、仲間とともに作業をしていただきました。サクラティエでは、様々な分野の団体の利用も増え、〇〇教室など、市民の皆さんが集える場所となっています。今年度も年度末にサクラマルシェを予定していたが、新型コロナ感染防止で中止としました。

・情報の交換、発信をします

○法人全体の広報活動は組織が作れずに取り組みませんでした。ホームページ・広報誌今後の課題。6福祉会・きょうされん・セルフ等の活動に参加し他の法人事業所と新たな課題等の学習や交流を深めることができました。

4. 理事会、評議員会の開催

理事会	(年間延べ出席率 96.8%)				
第14期 第8回	理事会	R1年	6月12日(水)		・監事出席2
第15期 第1回	理事会	R1年	6月27日(木)	欠席2	・監事出席1
第15期 第2回	理事会	R1年	11月5日(火)		・監事出席2
第15期 第3回	理事会	R2年	1月25日(土)	欠席1	・監事出席1
第15期 第4回	理事会	R2年	3月27日(土)		・監事出席1
評議員会	(年間延べ出席率 71.4%)				
第9期 第5回	評議員会	R1年	6月27日(木)	欠席2	・監事出席1